

岩手県北地方におけるラッカセイの経済性

古 沢 典 夫*、神 山 芳 典*

1 ま え が き

本県では昭和42年からラッカセイに対する試験研究がなされてきたが、マルチ栽培技術体系の確立と極早生大粒良質品種「タチマサリ」の選定増殖によって、すでに普及実用化の段階に至っている。従来この作物の経済的栽培の北限は北関東とされており、とくに大粒種の北東北導入は画期的な技術革新と言ってよいであろう。

また、主産地である千葉、茨城県で都市化に伴う作付減を余儀なくされており、多収安定化した新産地である北東北に対する生産拡大の要請には大きなものがある。

他面、岩手県北畑作地帯ではかねてから水稻作に匹敵する少投資・省力・価格安定の高収益作目選定に対

する要望が強い。

以上のような実情から、50年に3カ所の現地試験圃を設置し、成果を解析して経済性を明らかにした。その結果かなりの有利性を認めたので、略述して普及上の参考に供することとする。

2 収量水準と経済性

当场および現地農家の3カ年延べ6点の平均的収量は上莢重で540 kgであり、気象不良であった49年の449 kgが最低で、50年の水田転作の加工トマト跡(農家A)の654 kgが最高であった(第1表)。粗収入はkg当り300円として13.5~19.6万円となり、平均15.6万円に達している。実際にはkg当り350円であったが、種子用として若干単価高であったようで、以下kg当り300円として試算する。

第1表 県北地方(軽米町)におけるラッカセイ「タチマサリ」の生育収量と粗収入(10a当り)

年次	項目	主莖長 cm	地上部重 kg	株当り 上莢数 ヶ	上莢重 kg	粗収入 万円	備考		
							場所	土壌	
農家	A	50	51.4	2,755	30	654	19.6	沢里	腐植質火山灰土転作5年目
	B	50	49.8	2,018	21	533	16.0	山内	沖積砂壤土
	C	50	43.8	1,780	21	490	14.7	板橋	腐植質火山灰土
県北分場		48	31.8	1,398	15	568	17.0	上館	腐植質火山灰土
		49	41.8	1,251	19	449	13.5		
		50	49.7	2,327	26	545	16.4		
	平均		41.1	1,659	20	521	15.6		
総平均		44.7	1,922	22	540	16.2			

第2表は収量変化にともなう所得を示したもので、500 kgを目標とし、著しい悪天候や悪条件を考慮して350 kgを最低とする。所得は10.7~6.3万円の間にある。

目標収量500 kgにおける現地試験での農家3戸から

得られた経済収支は第3表である。この表は総括表で、ア 標準技術体系表、イ 機械利用および労働配分表、ウ 大農機具償却費および修理費算出表、エ 種苗、肥料・農薬・諸材料・光熱動力など明細表はいずれも基礎としてあるが、ここでは省略してある。

* F_{umio} F_{URUSAWA}, Y_{oshinori} K_{AMIYAMA} (岩手県農業試験場県北分場)

第2表 収量変化にともなうラッカセイの所得 (10a 当り)

収量水準 (kg)	300	350	400	450	500	550	600	650	700	備考
粗収入 (円)	90,000	105,000	120,000	135,000	150,000	165,000	180,000	195,000	210,000	単価 kg 当り 300 円
固定的費用	38,893	同 左	"	"	"	"	"	"	"	
変動的費用	2,700	3,150	3,600	4,050	4,500	4,950	5,400	5,850	6,300	
費用合計	41,593	42,043	42,493	42,943	43,393	43,843	44,293	44,743	45,193	
所得	48,407	62,957	77,507	92,057	106,607	121,157	135,707	150,257	164,807	
所得率 (%)	53.8	60.0	64.6	68.2	71.1	73.4	75.4	77.1	78.5	
備考		最低と 思われ る収量		当場 での最 低収 量 (S 49)	50年最 低収量 目標 収量	平均的 な収量		50年最 高収量		

第3表 経済収支総括表 (10a 当り)

項 目	標準技術体系 による金額	備 考
粗 収 入 (A)	150,000 円	目標収量 500 kg 基準単価 茨つき kg 当り 300 円 (庭先価格)
生 産 費 用 (B)		
① 種 苗 費	6,500	10a 当り 剥実 13 kg × @ 500 円, 消毒済み
② 肥 料 費	7,255	
③ 農 薬 費	2,003	
④ 光 熱 動 力 費	1,057	
⑤ 諸 材 料 費	8,900	マルチフィルム 6,500 円, 出荷用古麻袋 2,400 円
⑥ 農 具 修 繕 費	2,820	
⑦ 大 農 具 償 却 費	9,008	
⑧ 支 払 利 子	1,350	流動費 × 10.5% × 1/2 (流動費 25,715 円)
計	38,893	
流 通 費 (C)	4,500	農協販売手数料 3.0%
経 営 費 合 計 (D)	43,393	
所 得	106,607	
労 働 1 日 当 り 所 得	9,604	粗収入の生産費割合 (B/A) = 25.9%
所 得 率 (%)	71.0	" 流通費割合 (C/A) = 3.0%
投 下 労 働 時 間 (時 間)	89	生産物 1 kg に要する費用 = 87 円
	(11.1人)	

3 他作目との労働競合

第4表のように、ニンニク植付けとは収穫で著しく競合し、他に当地方では稚苗機械移植(水稻)と収穫、アズキ収穫、ホップのつる処理、リンゴの除袋、トマ

ト類の育苗管理と支柱立てとの競合がある。

このことは、本作物がどのような営農類型と親和するか、導入上の問題点として留意されねばならない。

ラッカセイの規模拡大上の制約要因の最大は5月中旬ころの播種作業であるが、10a 当り 3.5 人を要する

として、労働力3人で10日間の許容日数と仮定すれば 86aまで可能と算出される。

第4表 ラッカセイと他の作物との労働の競合

作物名	作型	ラッカセイとの労働競合(作業名)	
		播種(5中)	収穫(9下・10上)
水稲	手植	○ 田植準備	△ 収穫
	稚苗(⊕)	△-× 代かき田植	△ 収穫
ダイズ		△ 播種と準備	◎
		○ 播種と準備	△-○ 収穫
畑稲	マルチ	◎	○ 収穫
	露地	◎	◎
オムギ	直播 春播	◎	◎
コムギ		◎	◎
タバコ		◎	◎
ホップ		△ つる処理	◎
デントコーン		○ 播種準備	◎
リンゴ		◎	△ 除袋
加工トマト		○-△ 育苗管理	◎
夏秋トマト		○-△ 支柱立	◎
"キュウリ		◎	◎
スイートコーン		◎	◎
さやエンドウ		◎	◎
短根ニンジン		◎	◎
ニンニク		◎	△-× 植付け
秋ダイコン		◎	◎
バレイショ		◎	◎
夏ハクサイ	◎	◎	
"キャベツ	○ 育苗管理	◎	
秋キャベツ	◎	◎	

凡例. × 著しい競合 △ 競合がある ○ 多少は重なる ◎ 重ならない

4 むすび・要約

1 現地試験を含む3カ年6点の平均収量は540kgで、500kgを目標にできるし、最低350kgを下回らないであろう。粗収入は15万~10.5万円、所得10.6~6.3万円、労働報酬9.6~5.7千円が見込まれる。

2 農家の投下労働力は115時間ほどであったが、89時間まで低減できる。労働力3人で10日として播種が制約要因と考えれば、86aが作付可能である。ニンニクなどとの労働競合をとくに留意する必要がある。

3 このような性格は水稲に近く、400kgの収量水準で当地の水稲を上回る経済性があり、とくに労働報酬で勝る。

4 茎葉2tの副産物は飼料として評価されるし、根粒菌による窒素固定は、地力維持上の意義が大きいものである。

5 本作物は脂質・蛋白質に富み、栄養価は極めて高い。煎り英・ピーナッツ和え・トウフ・枝豆的利用など用途は広く、農家の自給食品として定着するであろう。

6 以上の諸点、とくに契約栽培的な流通ルートも確立し、少投資・安定で広い面積をこなせることから、当地方の有望作目と判定される。

なお、留意点として日照良好な条件で連作を避けること、マルチャー・掘取機・脱粒機などの共同利用が望ましいことなどをあげておきたい。